

# 第54回 山陽新聞賞



山陽新聞社は毎年、文化、社会、教育、学術、産業の各分野で地域社会に貢献した個人・団体に「山陽新聞賞」「山陽新聞奨励賞」を贈り、その功績をたたえています。今年第54回は山陽新聞賞十一人、二団体、山陽新聞奨励賞二団体の受賞が決まりました。受賞者には賞状、賞牌(はし)と賞金(山陽新聞賞三十万円、山陽新聞奨励賞二十万円)を贈ります。贈呈式は八日(月)、岡山市駅元町のホテルグランヴィア岡山で行います。(受賞者の経歴、業績は16、17面に掲載)

なお、山陽新聞賞と同時に発表しました体育分野の個人、団体の功績をたたえる山陽新聞体育賞は、賞の独自性を考慮し、今回から分離、独立させ、今月中旬に発表します。(敬称略)

## 文化

写真 中村 昭夫(岡山)  
音楽振興 近藤 安 个(岡山)  
備前焼 伊勢崎 惇(岡山)  
(号簿)

## 社会

自然保護の推進 重井 博(岡山)  
国際医療救護活動 アジア医師連絡協議会 (AMDA) (岡山)

## 教育

教育振興 戸川 大 六(岡山)  
大学教育 福田 稔(岡山)

## 産業

地元経済界の発展 松田 基(岡山)  
繊維産業振興 河合 正 照(岡山)  
地元経済界の発展 刈田 興(岡山)

## 文化

伝統芸能振興 下津井加振会(岡山)  
新技術の開発 三造メタル(株) 新素材事業部(三井造船)(株)

## 産業

技術開発本部玉野研究所 「大型タン型」(岡山)  
「開発チーム」(岡山)

山陽新聞社

## 一滴

地域への人は、豊かさは人の豊かさにある。第五十四回山陽新聞賞は道筋に精通し、社会へ貢献する十一人・二団体贈られる。文化功労は五氏。写真家の中村昭夫さん。深い郷土愛で、吉備の文化財や自然を明に撮り続ける陶芸家の森才蔵(号・陶岳)さんは大森で古備前再現に情熱を燃やす。スケールの大きい作品だ。同じ燃物の伊勢崎惇(号・惇)さんは、新境地を開き、造形美に可能性を探る。ノートルダム清心女大教授近藤安(号・安)さんは、岡山県に力を注ぐ。オスラ上演にも力を注ぐ。竹工芸の門田頼男(号・頼男)さんは高度な、組み立て技術を開発する。社会功労のアジア医師連絡協議会(AMDA)菅波茂代表は岡山を拠点に世界の救済医療に活躍。国連から日本の医療NGO(非政府組織)に認定された。重井博(号・博)は、院長の重井博(号・博)は、地域医療の傍ら自衛隊活動に取り組み、救護活動の福田稔(号・稔)は岡山大農学部部長の後、山陽新聞で大学開設に尽力、学長として活躍。戸川大六(号・大六)は、倉敷育成、岡山朝日高校長。全国高校総体を岡山

へ誘致した。産業功労の岡山県アパレル工業組合理事長・河合正照(号・正照)は、繊維の児島にあり、地場産業の活性化を、岡備バス会長の松田基(号・基)は、防災要職を歴任、企業文化事業にも意欲を注ぐ。刈田興(号・興)は、岡山商工会議所会頭。津山国際総合音楽祭を成功に導く。林原生物化学研究所(林原徳社長)は、環境・トレハロース量産化に成功。世界初の快挙。

## 社会功労 アジア医師連絡協議会=AMDA (代表・菅波茂氏) 岡山市櫛津310ノ1

昭和五十九年、カンボジア難民キャンプで活動した医師、学生が中心となって発足。以来、医療NGO(非政府組織)として、アジア各国の医師らと連携し、世界各地で自然災害や紛争に苦しむ被災民や難民への緊急医療救護活動や発展途上国での保健医療プロジェクトを展開している。韓国、フィリピン、インドなど海外に十四支部を持ち、会員数は国内七百人、海外二百人。

平成七年は、一月の阪神大震災で医療救護活動を展開。五月のサハリン大地震では海外の医療NGOとしていち早く現地入りし被災者の救援に当たると、迅速な救援活動があらためて国内外から大きな評価を受けた。六月には、国内の医療NGOとして初めて国連認定のNGOに登録された。

このほか、平成六年から岡山



## 世界各地で医療救援

菅波茂代表は「地元の皆さんのこれまでの温かい支援にあらためて感謝したい。国連NGOとしての政策提言能力を高めていくとともに、医療、教育、宗教を大切にす岡山の伝統的な精神風土を生かし、これからも岡山を拠点として、国際貢献活動を続けていきたい」と話している。

県下のNGOなどで組織する「国際貢献トリア岡山構想を推進する会」に参加して「おみやま国際貢献NGOサミット」を開催。国際貢献のアロを養成するため、岡山県内に「AMDA国際大学」の設立構想を進めるなど、国際貢献の立場から地域活性化にも熱心に取り組んでいる。